

# 脳神経外科医

木下 景太 さん(27)

川崎医科大学付属病院  
(倉敷市松島)

# おじとナビ

「知識を増やし、技術を磨き、一人でも多くの患者さんを助けたい」と話す木下さん



## 木下さんからのメッセージ

進路は自分で決めるからこそ、つらいことも乗り越えられ、頑張れると思います。若いときから勉強でもスポーツでも一生懸命打ち込んでみてください。視野が広がるだけでなく、自信につながり、決断力も芽生えるはずですよ。

# 一刻を争う状況で命救う

脳には無数の血管が通って与えられた使命」と木下景太(27)はきっぱりと話します。その血管が詰まったり狭くなったりする病気が脳梗塞や脳出血です。脳神経外科では、そうした脳の病気のほか頭を支える骨(頸椎)や背の中を通る神経(脊髄)などの病気の診断・治療を行っています。

「命に関わるのが脳の病気。怖さ。状況を調べ、その人に最も合った治療を行うのが013年から同大付属病院で

2年間、研修医として内科や救急科などで経験を積み重ね、今年4月から脳神経外科で働いています。

脳の血管内の治療は、頭を切り開くことなくカテーテルという細い管を使って血管の中から手術ができるようになるなど技術や器具の進歩が目覚ましく、注目されています。それだけに「知識を増やし技術を磨き続けることが大切」と言います。

脳に酸素や栄養分を運ぶ血液の流れが止まってしまうと大きなダメージを及ぼします。「一刻も早く血液が流れるように処置をしなければ治療後に家族と一緒に退院していき姿を見ると、うれしくて疲れも吹き飛びます。多くの笑顔が見られるように、努力を続けていきたい」と話します。

勤務が終わる自宅に戻ってからも、患者が救急車で運ばれてくれば病院から呼び出しがあります。すぐに駆け付けられることができるように携帯電話を手放せません。

「意識不明だった患者さんが治療後に家族と一緒に退院していき姿を見ると、うれしくて疲れも吹き飛びます。多くの笑顔が見られるように、努力を続けていきたい」と話します。

(井上光悦、写真は中村映一郎)

## 脳神経外科医

脳神経外科医になるには、まず大学医学部・医科大学で6年間の医学教育を受け、医師国家試験に合格する必要があります。その後、病院で2年間、研修医としてさまざまな診療科を経験した後、自らの専門分野として脳神経外科を選択します。そこで一定の経験を積み、筆記・口頭試験に合格すれば、専門医資格が得られます。最新の知識と技術を持つプロフェッショナルとして、治療はもちろん、若手の育成などにも当たります。



検査結果などを基に、患者の治療方針を話し合う検討会。脳神経外科のメンバー全員が参加します。川崎医科大学付属病院。